

限界集落について

須田 勝 議員

質問 本格的な人口減少社会を迎える中で、過疎、高齢化が進行している山村地域においては、集落機能の衰退や社会活動の低下により、農地、山林、水源等の地域資源の管理が困難な状況である。国・県においても過疎、山村地域の集落に関する調査、実態と把握、

その対策と検討が重要な施策となっているが、我が川市は。

答弁 国では、過疎地域を対象に国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査を実施し、県でも、現在、ぐんま山村集落機能実態調査を進めています。

市では、こうした調査は行っていないが、コミュニティの維持が難しく、田畑、山林の荒廃を招くことのないよう、国・県の調査結果を参考に、様々な機会を捉えて地域の実態とその推移の把握に努めていきたいと考えます。

人口に関しては、全国的な減少傾向にある中で、市においても総合計画人口フレームはこうした傾向を踏まえたものとなっています。このため、子供の成長に

じた総合的支援策の拡充や生活環境、生活利便性の向上等、様々な施策を総合的に取り組むことにより、定住人口の確保と交流人口の拡大に努めていきます。

特に、農家の高齢化、後継者不足による個人での農地、山林の維持管理が困難となっている状況は、全国的な問題となっています。このため、市では遊休農地対策、利用権設定制度や国の制度活用による森林整備などを推進していきます。

てきた。また、緊急時の対応策として、市内3団体と災害時応急対策業務協定書を締結した。防災行政無線は個人情報に配慮しつつ、人命優先で放送している。

質問 市内の各団地や無医地区への出張診療所設置について、市の考えは。

答弁 当面は、国保診療所の統合により体制強化を図ったうえで往診地域の拡大で対応し、出張診療所は、その後の検討課題とします。

質問 学校区、統廃合の検

討組織の設置が望まれるが考えは。

答弁 教育部内に適正配置研究チームを設置し、基礎資料の収集、課題の整理を行っています。今後、段階的に検討委員会等を設置したいと考えています。

質問 光ファイバー未設置地区への今後の対応と計画は。

答弁 通信事業者が光ファイバーの敷設を段階的に進めているので、早期整備を積極的に要望していきます。



川島地区の下水道工事

地域間格差の解消について

平方 嗣世 議員

質問 旧渋川地区は下水道事業が遅れている。整備を早める計画は。

答弁 渋川地区は、流域関連公共下水道で進めていますので、県央処理区の建設計画との整合や財政状況を考えて計画しなければなりません。現在、汚水処理計画を見直しています。この

中で重点的に整備する地域や整備量を検討します。

質問 災害時の危険予想地区改修計画は。また、防災行政無線は、個人情報保護と人命のどちらを優先した広報手段か。

答弁 危険箇所を掲載した防災マップを平成20年5月に全世帯に配布し、周知し



市内の山間地域

一般質問



渡り鳥（カモ）

自治会要望について

伊藤 俊彦 議員

質問 要望の主なものは、

道水路改良等であるが、地域住民が望む安心安全な生活のため、工事予算の増額はどうか。

答弁 厳しい財政状況ですが、要望にこたえられますよう鋭意努力します。

音楽活動の後援について

質問 全盲という大きな障

害を持った渋川出身の演歌歌手『清水博正』君を支援する考えはあるか。

答弁 市として個人の芸能活動を支援する考えはありません。

質問 市が中心となつて後援会を組織すればマスコミでも話題となり、市のアピールにもなるがどうか。

答弁 公平・公正な立場から個人の後援会を立ち上げることは難しいと考えます。

農業振興地域の農用地除外と農地転用申請について

質問 農用地除外申請の認可に1年以上も要し、市民

が非常に迷惑している。県と協議し是正措置を講じてほしいがどうか。

答弁 処理期間が少しでも短縮できるよう、県と協議を進めていきます。

排水路改良計画について

質問 南部土地改良地域で

は宅地化が進展し大雨等による災害の発生が懸念される。南部幹線等に大きな排水路を建設してはどうか。

答弁 農地の開発的転用等を見極めながら、必要性を検討していきます。

質問 渋川市の将来を見据えて市全体の排水路新設等計画づくりが必要と思うがどうか。

答弁 土地利用の動向や災害の発生状況等を把握し、地域ごとに必要性を研究していきます。

新型インフルエンザについて

山崎 雄平 議員

質問 鳥インフルエンザは、

鳥から鳥に感染するもので、人から人への感染拡大は確認されていないが、500人くらいが感染し300人近くが死亡している。20世紀には3つの新型インフルエンザが発生し、大流行して何百万人もの人が亡くなった。すべて、鳥型が突然

変異して新型が発生し大流行したものである。新型インフルエンザがいつ発生してもおかしくない状況。試算では最大5億人もが亡くなるという。国・県・市ではこれからどうしていくのか聞きたい。

答弁 国内で鳥インフルエンザが発生した場合は「高

病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」により焼却・埋設・消毒等の措置を行います。また、新型インフルエンザ対策として国は事前にワクチンの備蓄をしています。世界のどこかで発生した場合はガイドラインに沿って

入国時の検疫、医療体制の整備を行い、県市等は発熱外来や入院医療機関の整備や情報提供などを行います。
定住自立圏構想について
質問 地方の中小都市、町

村から人口が流出しこれが止まらない。地域、集落機能が維持していけない状況。合併した渋川市、やすらぎとふれあいに満ちた“ほっと”なまちは、どうなるのか聞きたい。

答弁 総合計画に掲げた施策の着実な実行と3つの重点プロジェクトの施策間との横断的な連携により定住人口の確保と交流人口の拡大を図り、総合計画に位置付けられた将来像の実現に向け取り組んでいきたい。



改良工事が望まれる水路